



JSTだより vol.6

JST支援者限定配信！



バイオン中学校生徒たちの生活について知りたい！②

2018年9月発行の「JSTだよりvol.4」では、バイオン中学校の生徒たちの「アルバイト調査・生活調査」についての内容をお届けしました。一部の生徒は学校に通うため、進学のため、生活のために働いているという現状がわかりました。また、バイオン中学校学区内の5つの村では小学校退学者数が未だ50%以上にのぼります。彼らの生活環境をさらに知るため、今回は、国で規定されている「生活支援制度」について調べてみることにしました。

カンボジアでは生活支援が必要な家庭を対象に「生活支援カード」（図1）というものを発行しています。対象家庭は二段階にレベル分けされます。例えば、「レベル1は所有物（テレビ・バイク・自転車など）が100ドル以下で買えるものしか持っていない。レベル2は所有物（同上）が250ドル以下で買えるものしか所有していない」というように分けられます。しかし分け方は少し曖昧です。良いバイクを所有していても家の屋根が葉っぱで作られている場合に生活支援対象になったり、新婚で分家として別れた際に、物を持っていない状態で家を建てて対象になるということもあります。レベル1の場合、病院や健康センターでの負担額はなし、レベル2の場合は、50パーセント負担のみとなります。

名前・性別・居住地・生年月日など



家族写真

実際の生活支援カード（図1）

レベル



< 支援対象家庭 >

壁をヤシの葉で作っている家。当初、家主は資金がなくヤシの葉で壁を作ったそう.. (2015年)



< 支援対象外家庭 >

壁と窓を設置して立派な家になっていました！ (2019年)

脚注

< 脚注に書かれている内容 >

- 1, このカードは、村の自治体の家庭調査において「生活支援が必要とされる基準」を満たしている場合、カンボジア王国によって発行される。
- 2, 4年間で有効である。失効後も家庭調査が行われ「生活支援対象基準」を満たしている場合、更新される。
- 3, このカードを所有する家庭の家族メンバーのみ有効である。
- 4, カンボジア内の健康センター、病院、その他の支援機関などでこのカードを提示すると割引が適用される。
- 5, このカードを拾ったら、自治体又はシェムリアップ州の州庁舎に届けること。

バイオン中学校「生活支援家庭調査」

今回、「生活支援家庭」について調査を進めるにあたって「生活支援カード」を所有している生徒にカードを提出してもらいました。その結果**52名**の生徒が提出してくれました。内訳は中学1年生が**38名**、中学2年生が**11名**、中学3年生が**3名**でした。（現在の生徒数516名）

教えて！校長先生！アンコールクラウ村副村長さん！

*バイオン中学校区域には他に4つの村があります。

上記の結果や生活支援対象家庭の生徒について**校長先生**と**アンコールクラウ村の副村長さん**にインタビューを行いました。

Q1. 高学年の提出数が少ないのはなぜでしょうか？

校：高学年になるにつれて自分の家が生活支援を受けていることを**恥ずかしい**ことだと思うようになり、**隠す**のかもしれませんが。私の予想では**約150名**の生徒が「カード」を所有していると思います。

Q2. 学校側として生活支援対象家庭の生徒たちへの配慮などあるのですか？

校：はい。あります。例えば支援者の方々に自転車、文房具などの寄付を頂いた時、生活支援対象家庭の生徒に**優先**して配布しています。ただ困ったことに、そういった勉強用具、筆記用具をもらっても**一生懸命勉強しない生徒、学校にこない生徒**もいます。

Q3. 生活支援対象家庭でバイオン中学校を卒業した生徒のその後の進路は？

校：今年高校3年生になっている生徒もいます。生活支援対象家庭に限らず中学校卒業後に**働く生徒**もいます。

Q4. バイオン中学校のある地域は他のカンボジア農村地域と比べて貧しいのですか？

校：そんなことはありません。この地域は比較的町にも近いエリアです。さらに奥には、道のない地域や病院まで**2,3時間**かかる地域などもあります。他の農村地域と比べて貧しくはないのですが、中学校周辺地域の家庭の中には頑張る気がないのか、知識がないのか、野菜を育てて売ろうということすらしない家庭もあります。

副：その中でもアンコールクラウ村の**生活レベルは他の4つの村と比べて高い**といえます。州・郡・市の自治体が調査し、そのような結果が出ました。また村の中心に行くくと**立派な家が多い**です。現在は所得が高くなって分家でも立派な家を建てるようになりました。

Q5. 以前と比べてアンコールクラウ村の生活支援を受けている家庭は減っていますか？

副：はい。減っています。**2016年**、対象世帯は**141世帯**でした。しかし**現在は85世帯**です。生活支援対象世帯は**3年に1度**調査されます。私の実感として、村人がよく働くようになったと感じています。それに所有物なども良いものを持ちたいと意識し、良いバイクに乗ったりするようになりました。

Q6. 副村長さんの実感として、小学校を中退する生徒は生活支援対象家庭が多いでしょうか？

副：経済的理由で中退するというよりは、**親が教育に関心がない**ことが原因だと思います。私の実感としては生活支援対象家庭の生徒たちの方が熱心に勉強する印象を受けます。現在は、貧しいから学校にいかないということはありません。今後は、親が教育に関心を寄せるかどうか**問題**となるでしょう。

Q7. 貧しくても中学校へ行かせるのは、その後良い仕事に就かせるためですか？

副：できるだけ上の学校にいかせていい仕事に就くと生活は良くなると考えていると思います。また自分自身が読み書きできないので、子供たちにはできるだけ**いい教育を受けさせてあげたい**と考えている親もいます。そういう考えがない親は子供に**物売り**をさせたりするのかもしれませんが。



バイオン中学校校長
ルー先生



アンコールクラウ村副村長
トク・タク氏

今回のインタビューで、村の子供達が小・中学校を退学する理由としては、家庭の経済状況よりも親の教育に対する理解が大きく関連しそうだということがわかりました。引き続き調査をしていきたいと思ひます。

2018年1月上旬。バイオン中学校でJSTインターン生・野本によって衛生調査・授業が行われました。「カンボジアの農村部でどれくらい石鹼を使った手洗いが普及しているのか」を1年生86人を対象にアンケート調査し、「手洗いの重要性」や「正しい手の洗い方を知ってもらおう」と、衛生授業を行いました。

まず事前に、授業を受けてもらう86名の生徒に無記名アンケートを実施しました（左参照）。Q1で「手を洗う時、石鹼を使いますか」という質問に対して79人が「はい」と答えていますが、バイオン中学校の手洗い場には「石鹼」が備え付けられていませんでした。またQ2で「洗った後手をタオルで拭く」と答えた生徒が73人いましたが、授業でハンカチを持っている人に挙手してもらったところ1人しか手が上がりませんでした。その他にもカンボジアの衛生教育についていくつか疑問が生じたため、校長先生に以下のインタビューを行いました。

事前アンケート（一部抜粋）

Q1, 手を洗う時、石鹼を使っていますか？

A. はい: 79人, いいえ: 5人, 無回答: 2人

Q2, 洗った後、手はどのようにしていますか？

A. 紙で拭く: 7人, タオルで拭く: 73人, 洋服で拭く: 5人
拭かない: 0人, 無回答: 1人

Q3, 学校にある手洗い場を1日何回使いますか？

A. 0回; 0人, 1回; 3人, 2回; 36人, 3回; 27人
4回以上; 19人, 無回答; 1人

Q1. 生徒は本当に石鹼で手を洗っていますか？
Q2. バイオン中学校に石鹼を設置したことがありますか？
Q3. カンボジアの学校では石鹼で手洗いを教える衛生授業はありますか？

校長先生のインタビューより

今回のアンケートでは、手を洗っていないくても恥ずかしがって「石鹼で洗っている」と書いた生徒もいたかもしれません。私の予想では、食べる前などは洗っていないのではないかと思います。

またバイオン中学校の手洗い場には以前、石鹼を置いていました。しかし、生徒たちは使い方がわからず元の場所に戻してくれませんでした。その結果、石鹼は紛失してしまい、先生たちも諦めてしまいました。原因としては生活の中で手洗いの習慣が浸透していないからでしょうか…。カンボジアの学校で衛生教育について教える機会はありません。私が子供の時なかったのも石鹼がばい菌を殺すという効力があることは大人になるまで知りませんでした。生徒の親も正しい手の洗い方について知らないでしょう。最近ではテレビの放送や衛生について学ぶイベントが開催されていますが、学校で学ぶ機会はありませんね。

この授業ののち、石鹼を取り付けて手を正しく洗える子が増えました。しかし洗い方を知らない子は石鹼を乾燥したまま使おうとしたりします。今後は石鹼の使い方を説明するポスターなどを用意した方がいいかもしれません。うまく洗えるようになると思えば生徒たちも継続して洗ってくれると思います。

衛生授業

事前アンケートを行った生徒を対象に衛生授業を行いました。授業では「手を洗うことの重要性を知ってもらうために「手洗いをしなかった場合の症状」、「手を洗うことの重要性」などのレクチャーをしたのちに、UNICEFの手洗いダンス動画を見せ、正しい手の洗い方を学習してもらいました。そして最後には86人で一斉に手洗いの練習を行いました。



1. たらいの前でみんなで手洗い！ペットボトルを半分にした容器で綺麗に洗い流します。



2、手が綺麗になりました！「いい匂いがする～！」と喜ぶ生徒も！！



3、手洗い場に石鹼を設置しました。今後も継続的に手を洗ってもらいます！！

今後は半年に1回、JSTインターン生が生徒たちに衛生授業を行っていきたいと思います。またバイオン中学校を訪問される方で、ご家庭に石鹼が余っている方がおられましたら、訪問の際に持って来ていただければ幸いです。バイオン中学校の生徒たちが健康に過ごせるようご協力お願い致します！！



バイオン中学校に新たな施設ができました！！



創立6周年を迎えたバイオン中学校。生徒や教員がより快適に過ごせるようにと、昨年度もたくさんの寄付金をいただき、新しい施設を増築することができました。ご支援くださった皆様、ありがとうございます！

一宮中央ロータリークラブ

「調理場（松前キッチンハウス）」

2018年11月24日、一宮中央ロータリークラブの松前先生を中心にご寄贈いただいた「松前キッチンハウス」の完成式典が行われました。このキッチンハウスができたことによってバイオン中学校教員は、午前と午後の授業の間に容易に自炊できるようになりました。また、広い収納スペースが確保できたことにより、たくさんの調理器具や食器を整理整頓できるようになりました。



「調理場竣工式の様子」



「倉庫竣工式の様子」

東京新橋ロータリークラブ「倉庫」

2019年1月18日、東京新橋ロータリークラブの皆様によってご支援いただいた「倉庫」の完成式典が行われました。バイオン中学校では体育の授業はもちろん、毎年行われる運動会も種目が増え、より多くの手作り道具の収納スペースが必要になっています。またそれだけではなくたくさんの支援物資を収納しています。今回「倉庫」ができたことによって皆様からいただいた器具、物資を大切に保管できるようになりました。

京都ロータリークラブ

「焼却炉・堆肥ピット」

カンボジアの農村部ではゴミ収集車がゴミを回収するというシステムはなく、各自で処理をしなければなりません。そのため、バイオン中学校のゴミ捨て場にはゴミが散乱していた状態でした。「焼却炉」ができたことにより、自分たちでゴミを処理できるようになり、生徒たちも自分たちが出す**ゴミを意識**するようになりました。今後の目標は、学校で出る**ゴミを削減**することです。

また、堆肥を作る「堆肥ピット」ができたことにより、学校菜園の堆肥も自分たちで作ることができるようになりました。完成式典は2019年3月8日（金）に行われました。



「焼却炉ができる以前のゴミ捨て場の様子」



「生徒たちが堆肥を作る様子」



「完成した焼却炉」